

資料 1 : 委員名簿・開催経緯

(1) 救急業務高度化推進検討会

委員名簿

(五十音順、○は座長)

阿真 京子	(知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の会代表)
荒井 伸幸	(東京消防庁救急部長)
有賀 徹	(昭和大学医学部救急医学講座主任教授)
石井 正三	(日本医師会常任理事)
岩田 太	(上智大学法学部教授)
金森 佳津	(大阪府健康医療部医療対策課長)
川手 晃	(救急振興財団副理事長)
神戸 英樹	(栃木県県民生活部危機管理監)
菊地 裕嗣	(札幌市消防局警防部長)
坂本 哲也	(帝京大学医学部救命救急センター教授)
島崎 修次	(国士舘大学大学院救急システム研究科長)
杉本 壽	(星ヶ丘厚生年金病院院長)
田中 里沙	(宣伝会議編集室長)
津田 勝康	(大阪市消防局救急・情報通信担当部長)
南 砂	(読売新聞東京本社編集委員)
山口 芳裕	(杏林大学医学部救急医学主任教授)
○山本 保博	(東京臨海病院院長)
横田 順一朗	(市立堺病院副院長)
オブザーバー	
新村 和哉	(厚生労働省医政局指導課長)

開催経緯

回数	開催日	議 題
第 1 回	平成 22 年 6 月 21 日	(1) 平成 22 年度救急業務高度化推進検討会項目について (2) その他
第 2 回	平成 22 年 12 月 10 日	(1) 救急業務高度化推進検討会検討項目 ①改正消防法への対応について ②救急救命士の処置範囲拡大への対応について (2) 各作業部会における検討状況の中間報告 (3) 救急搬送の将来推計について
第 3 回	平成 23 年 3 月 8 日	(1) 平成 22 年度救急業務高度化推進検討会報告書(案)について (2) その他

(2) 重症度・緊急度の判定・選別（トリアージ）に関する作業部会

委員名簿

(五十音順、○は部会長)

阿真 京子	(知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の会代表)
○有賀 徹	(昭和大学医学部救急医学講座主任教授)
石井 正三	(日本医師会常任理事)
磯淵 久徳	(大阪市消防局警防部救急施策担当課長)
岩田 太	(上智大学法学部教授)
岡田 順吉	(奈良県総務部知事公室消防救急課長)
奥寺 敬	(富山大学大学院危機管理医学教授)
金森 佳津	(大阪府健康医療部医療対策課長)
桑原 正彦	(日本小児科医会副会長)
軍神 正隆	(東京大学医学部附属病院救急部副部長)
坂本 哲也	(帝京大学医学部救命救急センター教授)
嶋津 岳士	(大阪大学医学部教授)
中村 恵子	(札幌市立大学副学長・看護学部長)
畠山 晋	(東京消防庁救急部副参事)【10月1日から】
松原 正之	(横浜市消防局警防部救急課長)
森村 尚登	(横浜市立大学大学院医学研究科救急医学講座主任教授)
横田 裕行	(日本医科大学救急医学主任教授)
オブザーバー	
中野 公介	(厚生労働省医政局指導課救急医療専門官)

※ 西原 健治 (東京消防庁救急部副参事)【9月30日まで】

開催経緯

回数	開催日	議 題
第1回	平成22年 9月17日	(1) 救急安心センター事業の効果分析 (2) 各段階における緊急度判定のあり方について
第2回	平成22年 11月18日	(1) 救急安心センターモデル事業の効果分析 (2) CTAS 視察報告 (3) 各段階におけるトリアージの役割分析について
第3回	平成23年 1月13日	(1) 救急の各段階における緊急度判定の役割分析について (2) 救急安心センターモデル事業の効果分析
第4回	平成23年 2月23日	(1) 救急の各段階における緊急度判定の役割分析について (2) 救急安心センターモデル事業の効果分析

(3) メディカルコントロール作業部会

委員名簿

(五十音順、○は部会長)

飯原 弘二	(国立循環器病研究センター脳神経外科部長)
伊藤 重彦	(北九州市立八幡病院救命救急センター長)
岡本 征仁	(札幌市消防局警防部救急課長)
尾形 昌克	(広島市消防局警防部救急救命士養成担当課長)
織田 成人	(千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授)
鈴川 正之	(自治医科大学救命救急センター教授)
竹中 ゆかり	(救急救命九州研修所教授)
竹村 保美	(北九州市消防局警防部救急課長)
谷川 攻一	(広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態薬物治療学講座教授)
橋本 雄太郎	(杏林大学総合政策学部教授)
松川 茂夫	(東京消防庁参事・救急部救急管理課長)【10月1日から】
森脇 英治	(出雲市消防本部出雲消防救急救命センター長)
山本 隆一	(東京大学大学院情報学環准教授)
○横田 順一郎	(市立堺病院副院長)
渡邊 仁次	(千葉市消防局警防部救急課長)
オブザーバー	
郡山 一明	(救急救命九州研修所教授)
新濱 秀樹	(千葉市消防局警防部救急課)
中野 公介	(厚生労働省医政局指導課救急医療専門官)

※ 齊藤 英一 (東京消防庁参事・救急部救急管理課長)【9月30日まで】

開催経緯

回数	開催日	議 題
第1回	平成22年 8月24日	(1) 救急業務におけるICTの活用について (2) 救急搬送情報と医療情報を連結した調査・分析について (3) 救急救命士を含む救急隊員の教育のあり方について (4) メディカルコントロール協議会のあり方について (5) その他
第2回	平成22年 10月13日	(1) ビデオ喉頭鏡について (2) 救急業務におけるICTの活用について (3) 救急救命士を含む救急隊員の教育のあり方について (4) メディカルコントロール協議会のあり方について (5) 救急搬送情報と医療情報を連結した調査・分析について (6) その他

第 3 回	平成 22 年 12 月 7 日	(1) ビデオ喉頭鏡について (2) 救急業務における I C T の活用について (3) 救急搬送情報と医療情報を連結した調査・分析について (4) 救急救命士を含む救急隊員の教育のあり方について (5) メディカルコントロール協議会のあり方について (6) その他
第 4 回	平成 23 年 2 月 15 日	(1) ビデオ喉頭鏡について (2) 救急業務における I C T の活用について (3) 救急救命士を含む救急隊員の教育のあり方について (4) 報告書（素案）について (5) その他

(4) 救急蘇生作業部会

委員名簿

(五十音順、○は部会長)

鵜久森 政則	(松山市消防局警防課長)
岡本 征仁	(札幌市消防局警防部救急課長)
○坂本 哲也	(帝京大学医学部救命救急センター教授)
鈴川 正之	(自治医科大学救命救急センター教授)
野々木 宏	(国立循環器病研究センター心臓血管内科部門長)
畑中 哲生	(救急救命九州研修所教授)
平出 敦	(近畿大学医学部附属病院救急診療部教授)
藤井 茂樹	(大阪市消防局警防部救急管理担当課長)
松川 茂夫	(東京消防庁参事・救急部救急管理課長)【10月1日から】
横田 裕行	(日本医科大学救急医学主任教授)

※ 齊藤 英一 (東京消防庁参事・救急部救急管理課長)【9月30日まで】

開催経緯

回数	開催日	議 題
第1回	平成22年 8月20日	(1) 救急蘇生統計について (2) JRC (日本版) ガイドライン 2010 への対応について (3) 救急隊用 AED について (4) その他
第2回	平成22年 11月19日	(1) 救急業務統計について (2) 救急蘇生統計について (3) 消防庁サーベイランスシステムについて (4) JRC (日本版) ガイドライン 2010 への対応について (5) 救急隊用 AED に関する検証 (6) その他
第3回	平成23年 2月22日	(1) 救急蘇生統計について (2) JRC (日本版) ガイドライン 2010 への対応について (3) 救急隊用 AED について (4) その他

※ 第2回は救急蘇生統計ワーキンググループと合同開催

①救急蘇生統計ワーキンググループ

委員名簿

(五十音順、○は部会長)

今村 知明	(奈良県立医科大学健康政策医学講座教授)
岡本 征仁	(札幌市消防局警防部救急課長)
多田 恵一	(広島市民病院救命救急センター長)
中原 慎二	(聖マリアンナ医科大学予防医学教室講師)
長尾 建	(日本大学医学部駿河台病院循環器内科教授)
林田 純人	(大阪市消防局警防部担当係長 (医療連携))
○平出 敦	(近畿大学医学部附属病院救急診療部教授)
古川 保	(長崎市消防局警防課救急救助係主査)
オブザーバー	
坂本 哲也	(帝京大学医学部救命救急センター教授)

開催経緯

回数	開催日	議 題
第 1 回	平成 22 年 9 月 29 日	(1) 救急業務統計について (2) 救急蘇生統計について (3) その他
第 2 回	平成 22 年 11 月 19 日	(1) 救急業務統計について (2) 救急蘇生統計について (3) 消防庁サーベイランスシステムについて (4) J R C (日本版) ガイドライン 2010 への対応について (5) 救急隊用 A E D に関する検証 (6) その他

※ 第 2 回は救急蘇生作業部会と合同開催

②救急隊用AEDに関するワーキンググループ

委員名簿

(五十音順、○は部会長)

○鈴川 正之	(自治医科大学救命救急センター教授)
角田 信行	(大阪市消防局警防部担当係長 (救急管理))
田邊 晴山	(救急救命東京研修所教授)
長谷 敦子	(長崎大学病院救命救急センター副センター長)
増田 哲生	(東京消防庁救急部救急医務課長)
三谷 隆	(広島市消防局警防部救急課主幹)
横山 広之	(国立循環器病研究センター心臓血管内科部長)
オブザーバー	
坂本 哲也	(帝京大学医学部救命救急センター教授)
瀧岡 学	(厚生労働省医薬食品局安全対策課医療機器情報専門官)

開催経緯

回数	開催日	議 題
第1回	平成23年 1月26日	(1) 消防機関におけるAEDの保有状況 (2) AEDの不具合が疑われる事例について (3) 消防機関におけるAED点検マニュアル (4) その他

③救急蘇生ガイドライン 2010 ワーキンググループ

委員名簿

(五十音順、○は部会長)

伊藤 幹	(札幌市消防局警防部救急指導係長)
太田 邦雄	(金沢大学医薬保健研究域医学系小児科准教授)
佐藤 好司	(中濃消防組合消防本部警防課主幹)
谷川 攻一	(広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態薬物治療学講座教授)
永井 秀明	(東京消防庁救急部救急指導課長)
○畑中 哲生	(救急救命九州研修所教授)
三田村 秀雄	(東京都済生会中央病院心臓病臨床研究センター長)
牟禮 里義	(松山市消防局警防課主幹)
オブザーバー	
坂本 哲也	(帝京大学医学部救命救急センター教授)

開催経緯

回数	開催日	議 題
第 1 回	平成 22 年 10 月 19 日	(1) J R C (日本版) ガイドライン 2010 への変更に伴う対応について (2) その他
第 2 回	平成 22 年 12 月 14 日	(1) J R C (日本版) ガイドライン 2010 改訂の経緯と今後の進め方について (2) J R C (日本版) ガイドライン 2010<ドラフト版>の主な変更点について (3) J R C (日本版) ガイドライン 2010 への質問事項について (4) 消防機関における新たな心肺蘇生法の対応について (5) 一般市民に対する普及啓発活動について (6) その他
第 3 回	平成 23 年 1 月 31 日	(1) 一般市民に対する普及啓発活動について (2) 口頭指導について (3) その他
第 4 回	平成 23 年 2 月 14 日	(1) 第 3 回救急蘇生ガイドライン 2010 ワーキンググループの課題について (2) 救急蘇生ガイドライン 2010 ワーキンググループ報告書(素案)について (3) その他

救急車を上手に使いましょう

～救急車 必要なのはどんなとき？～



〈発行のねらい〉

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状もあります。

そこで、この度、皆様に上手に救急車を利用いただくため、「救急車を上手に使いましょう ～救急車 必要なのはどんなとき？～」を作成しました。この中には、

救急車を呼んだら用意しておくべきものなど「救急通報のポイント」、
重大な病気やけがの可能性のある「ためらわず救急車を呼んでほしい症状」、
実際に救急車を呼ぶ場合の「救急車の呼び方」などを載せていますので、救急車を呼ぶべきかどうか判断に困った場合などに、活用していただければと思います。

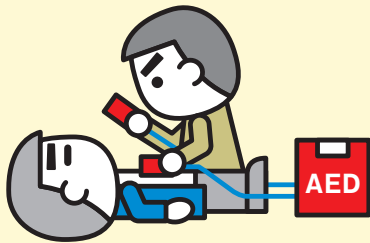
救急車や救急医療は限りある資源です。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していきたいと思っています。

救急通報のポイント

救急車を呼ぶときの番号は「**119番**」です。

救える命を救うためには、**応急手当**が重要です。
 応急手当が必要な場合は、消防本部から電話で指示されます。

救急車が到着するまではどうしても時間がかかります。
 いざというときに、大切な方を救うためにも、
正しい応急手当を身につけておきましょう。



お近くの消防署では**応急手当の講習**を行っています。
 消防署の電話番号は、市役所等のホームページなどで
 調べることができます。



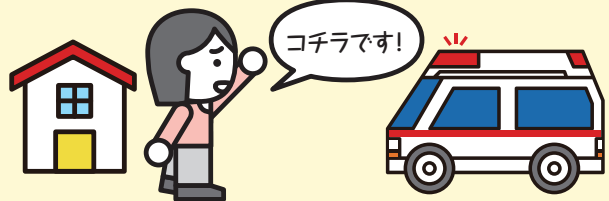
平均7.9分
 (平成21年中)



AEDを誰かに
 持ってきて
 もらってください



応急手当をしている人以外にも
 人手がある場合は、
救急車の来そうなところまで案内に出ると
 到着が早くなります。



救急車を呼んだら、**こんな物を用意しておく**と便利です。

- ・保険証や診察券
- ・お金
- ・靴
- ・普段飲んでいる薬
 (おくすり手帳)



お金

普段飲んでいる薬

(乳幼児の場合)

- ・母子健康手帳
- ・紙おむつ
- ・ほ乳瓶
- ・タオル



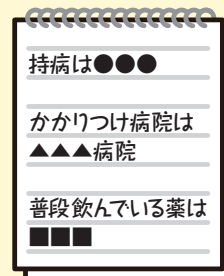
ほ乳瓶



タオル

救急車が来たら、**こんなことを伝えて下さい。**

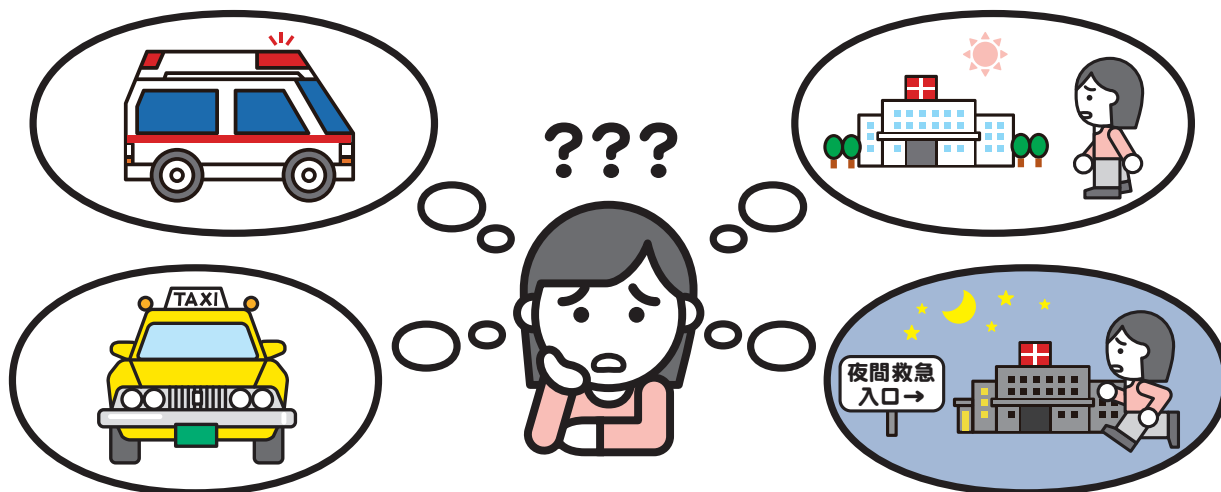
- ・事故や具合が悪くなった状況
- ・救急隊が到着するまでの変化
- ・行った応急手当の内容
- ・具合の悪い方の情報
 (持病、かかりつけの病院やクリニック、
 普段飲んでいる薬、医師の指示等)



* 持病、かかりつけの病院
 やクリニックなどは、
 日頃からメモにまとめて
 おくと便利です。

判断に迷ったときは、お近くの救急相談窓口

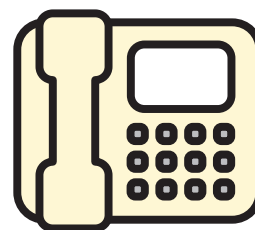
急な病気やけがをしたとき、救急車を呼んだほうがいいのか、自分で病院を受診すればいいのか、どこの病院に行けばいいのか迷うことがあります。



そのような時には
お住まいの都道府県や市町村に救急相談窓口がありますので**ご相談ください**。

例えば、次のような電話相談窓口があります。(平成23年3月現在)

- ☎ **#7119** 救急相談センター (東京都)
救急安心センター (大阪府、奈良県)
- ☎ **#8000** 小児救急医療電話相談事業
※各都道府県に窓口があります。



 MEMO

ためらわず救急車を呼んでほしい症状：大人

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！
重大な病気やけがの可能性あります。

顔

- 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- 視野がかかる
- ものが突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い



頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないくらい急にふらつく

胸や背中

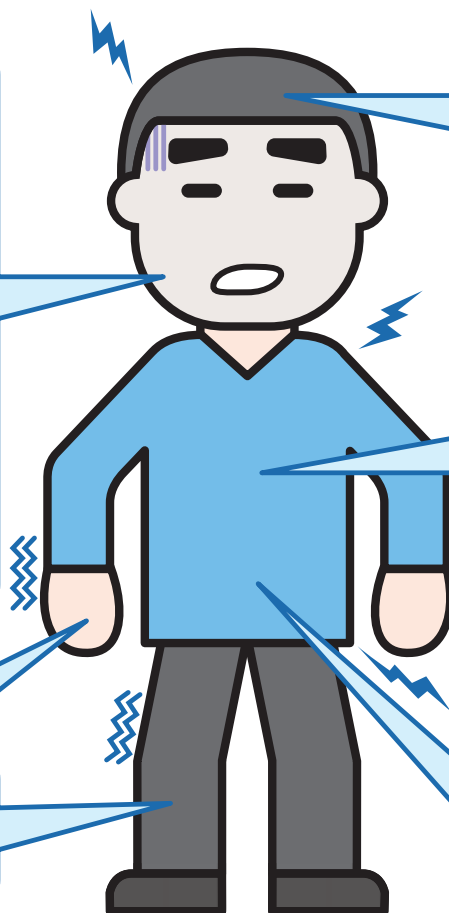
- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- 痛む場所が移動する

腹

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある

手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる



意識の障害

- 意識がない(返事がない) 又は おかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない



けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど



吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない



事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

ためらわず救急車を呼んでほしい症状：小児(15歳未満)

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！
重大な病気やけがの可能性があります。

顔

- くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い

胸

- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い

手足

- 手足が硬直している

頭

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血がとまらない、意識がない、けいれんがある

おなか

- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- ウンチに血がまじった

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

じんましん

- 虫に刺されて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

やけど

- 痛みのひどいやけど
- 広範囲のやけど

飲み込み

- 変なものを飲み込んで、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

生まれて3カ月未満の乳児

- 乳児の様子がおかしい

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

救急医療の受診について

症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいかわからない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」や「日中は用事がある」、「明日は仕事」などの理由で、救急外来を、夜間や休日に受診する人もいます。

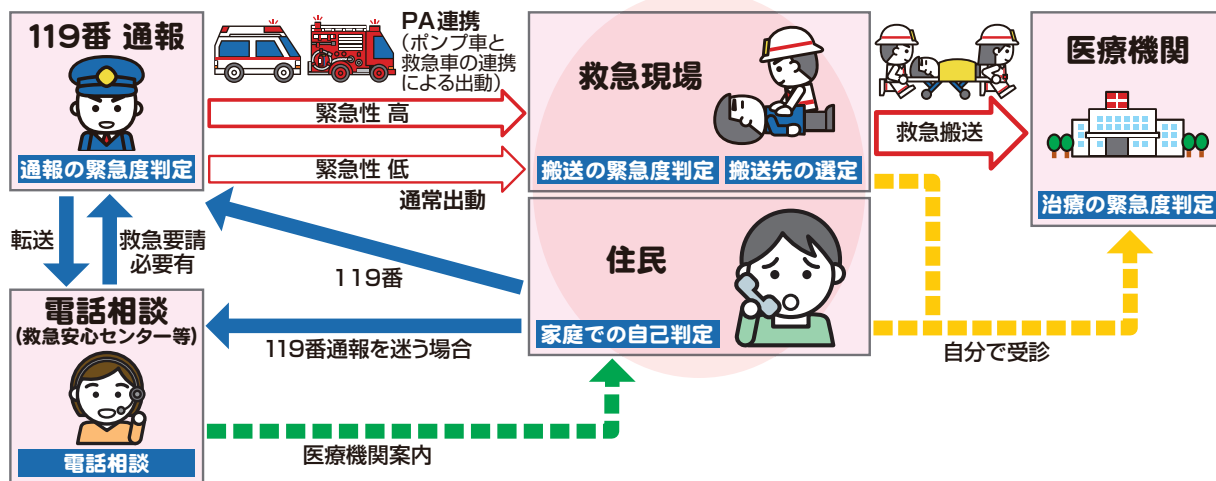
救急車や救急医療は**限りある資源**です。

いざというときの皆さん自身の安心のために、救急医療の受診について考えてみませんか。

こうしたケースで救急車が呼ばれました ～本当に必要か考えてみましょう～

- ・蚊に刺されてかゆい
- ・海水浴に行って、日焼けした足がヒリヒリする
- ・紙で指先を切った。血は止まっているが・・・
- ・病院でもらった薬がなくなった
- ・今日入院予定日だから、病院に行きたい
- ・ヘルパーを呼んだが来てくれなかったので、代わりに救急車を呼んだ
- ・病院で長く待つのが面倒なので、救急車を呼んだ

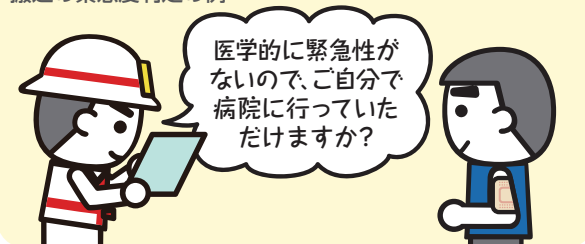
救える命を確実に救うためには、**緊急度に応じた救急医療を提供することが重要です。**



電話相談の例



搬送の緊急度判定の例



通報の緊急度判定の例

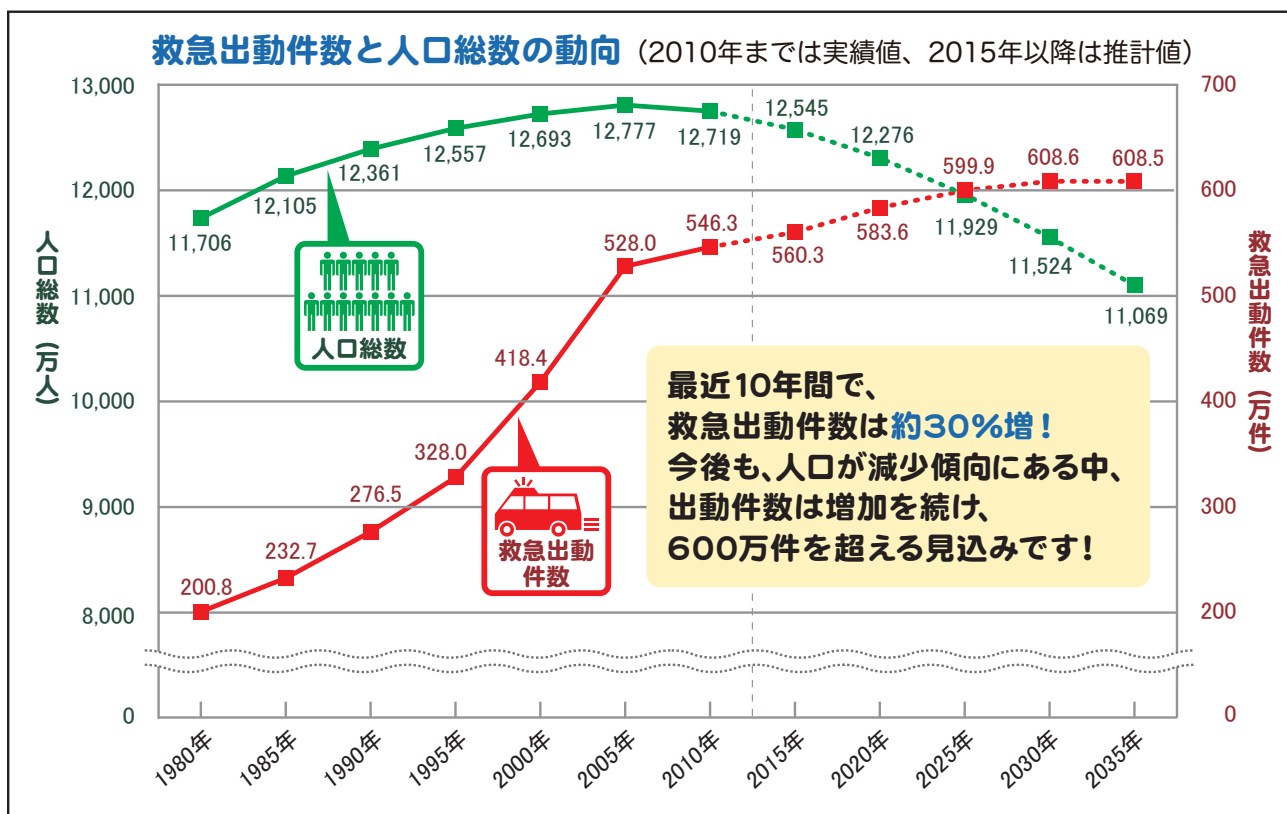


治療の緊急度判定の例



消防庁では、こうした**緊急度の判定基準**を共通のものとして、救急医療を効果的に提供する体制を作っていきたいと考えています。

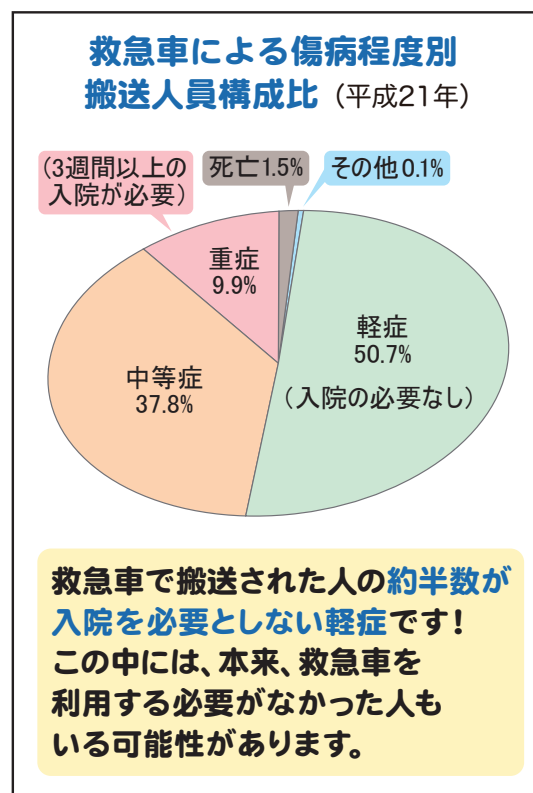
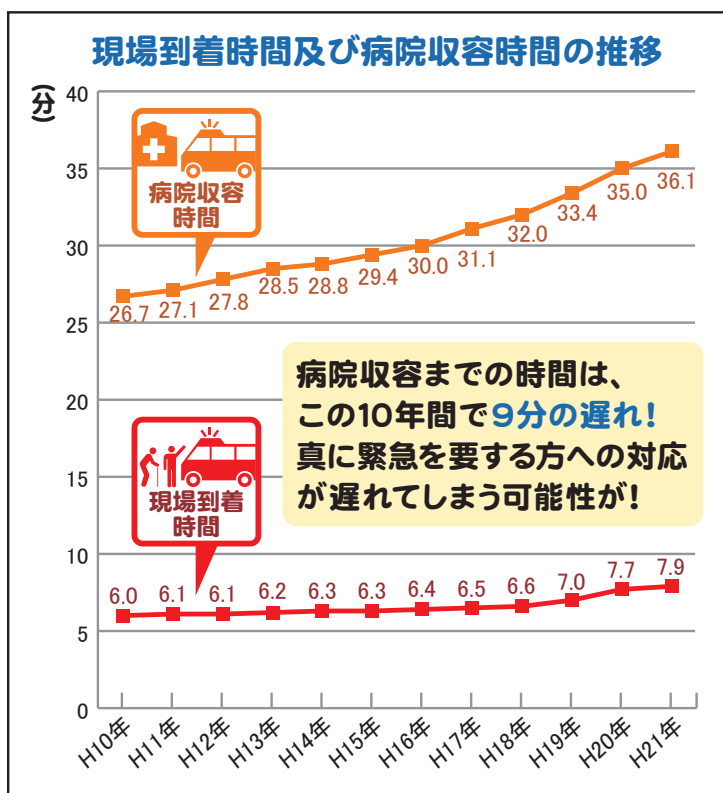
参考：救急出動の現状と将来推計



※2010年の出動件数は、速報値

※推計人口は、「日本の市区町村別将来推計人口」（社会保障・人口問題研究所作成）の中位推計を使用

※2015年以降の出動件数は、2007～2009年の全国の救急搬送データを基に算出した搬送率（救急車の利用率）と推計人口を用いて推計したものであり、今後の搬送率の変化や社会情勢の変化等は考慮していない



救急車の呼び方

119番通報をすると、指令員が救急車の出動に必要なことを、順番にお伺いします。
緊急性が高い場合は、すべてお伺いする前でも救急車が出動します。

あわてず、ゆっくりと答えてください。



119番、
火事ですか？
救急ですか？

救急です



1 救急であることを伝える

119番通報をしたら、まず
「救急です」と伝えてください。



住所は
どこですか？

〇〇市
〇丁目〇番地
です



2 救急車に来てほしい住所を伝える

住所は、必ず 市町村名から伝えてください。
住所が分からない時は、近くの大きな建物、
交差点など目印になるものを伝えてください。



どうしましたか？

父親が、
胸の痛みを訴えて
倒れました



3 具合の悪い方の症状を伝える

最初に、誰が、どのようにして、どうなったと
簡潔に伝えてください。
また、分かる範囲で意識、呼吸の有無等を
伝えてください。



おいくつ
の方ですか？

65歳です



4 具合の悪い方の年齢を伝える

具合の悪い方の年齢を伝えてください。
分からない時は、「60代」のように、
おおそでかまいませんので伝えてください。



あなたの名前と
連絡先を教えてください

私の名前は
〇×□美です
電話番号は…



5 あなたのお名前と連絡先を伝える

あなたのお名前と119番通報後も
連絡可能な電話番号を伝えてください。
場所が不明な時などに、問い合わせることが
あります。

※その他、詳しい状況、持病、かかりつけ病院等について尋ねられることがあります。
答えられる範囲で伝えてください。

※上記に示したものは一般的な聞き取り内容です。